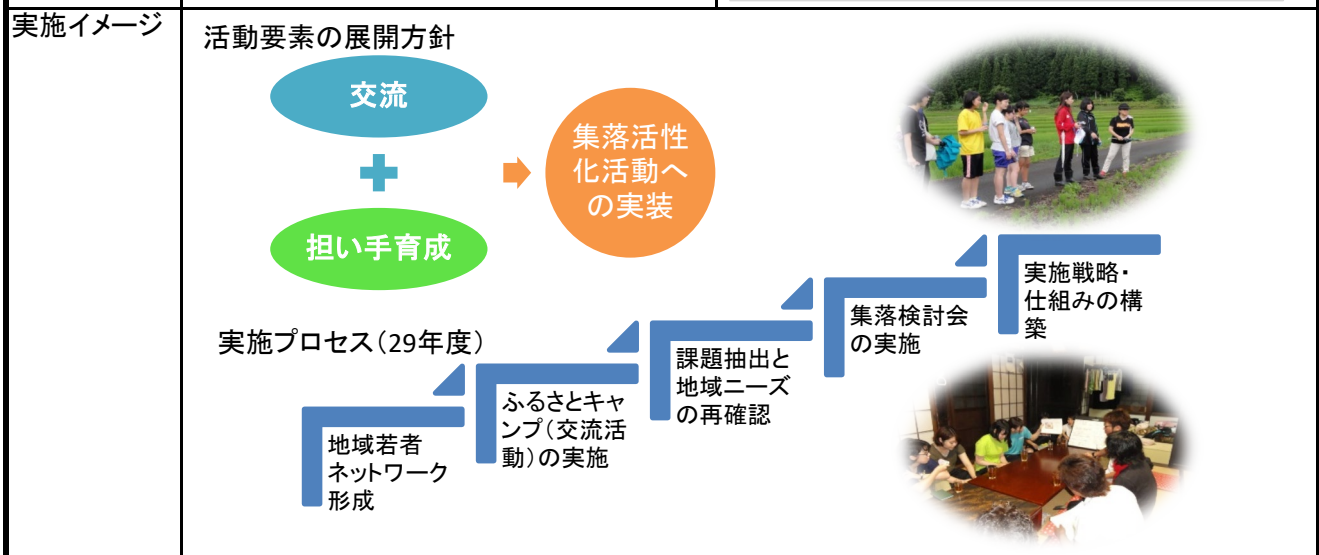


実習先	新潟県阿賀町室谷地区・室谷青年会 28-29年度								
目的・テーマ	「室谷ふるさとキャンプ」の試行実践－青年会・高校生・都市部大学生の協働による新たなムラづくりへの挑戦－								
目的・概要	<p>受講学生・実習先の問題意識・背景・目的等  <small>目平云どはしの地域組織に探々ゆきひびき進める「教育力」が仕任りるか、地域員源には不活用のものも多く、担い手育成・町外若者の誘引利用のための新たな方策が求められている。町全体でも、教育機関において、地域の資源を活かした教育プログラムが模索されている現状がある。このように、地域の多様な資源を活用しながら、担い手人材育成と外部交流を相乗的に促進させていくことが課題となっている</small></p> <p>概要  平成28年度及び平成29年度の「新潟県大学生の力を活かした集落活性化事業」を活用した取組を大正大学と東京農業大学が連携して実施。取組の基軸として、室谷地区の若手地域組織である青年会を基軸にしなが、集落全体の活性化を図るために、活用可能な地域資源(ひと・もの・こと)の掘り起こしと活用策の検討。これらの資源を基盤とした人材育成(担い手育成)・交流活動の相乗的活性化策について、大学はもとより高校などの地域教育機関との連携を視野に入れた仕組みづくりを行った。</p>								
分野	教育・まちづくり								
形態・期間・人数	長期継続・10日間(1泊2日、2泊3日、4泊5日などの組み合わせ)×2カ年/人数18人								
方法	講義・見学・観察・調査・参加・体験・ボランティア・AL・SL・PBL・AR								
プログラム	<p>(事前)</p> <p>平成28年度の取組として、青年会の活動に参加しながら、集落の概況を把握し、地域資源の掘り起こしを行うことを中心とした調査活動を実施。①青年会がチャレンジ素養としていることに寄り添い、構成メンバーと協働しながら研究調査活動を実施する。②青年会・若手世代層が軸となって地域活性化に寄与するための集落の自然・文化的資源に根差した新たな活動プログラムや生業を提案する。以上の方針の下、(1)地域資源調査(2)地域活動調査(3)意見交換会プログラムを設定し、段階的に内容を深めながら次年度の活動内容につながる提案を導き出した。</p> <p>(事中)</p> <p>28年度の調査・検討を踏まえて、以下の実践を実施。  (1)室谷区青年会・地域内外の高校生・大学生が協働する地域資源活用学習・実践プログラム「室谷ふるさとづくりキャンプ」を試行。(2)を踏まえて青年会・高校生・都市大学生が協働して町の人材育成と活性化に取組むためのサービスラーニング・キャリア教育プログラムモデルを構築。(3)構築したモデルをふるさと納税制度への活用など、内・外協働の学習・交流産業へと波及展開するための方策を考案。</p> <table border="1"> <tr> <td>①6月 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(自然活用編)の企画調整会議</td> <td>②8月7～10日 青年会、地元高校生、大学生の協働による「室谷ふるさとづくりキャンプ」(自然活用編)実施</td> <td>③9月7～10日 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(伝統文化編)の企画調整会議</td> <td>④9月10日 伝統文化編として、伝統行事(室谷祭礼)を活用した体験と地域貢献プログラムの試行実践</td> </tr> <tr> <td>⑤9月7～10日 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(交流イベント編)の企画調整会議</td> <td>⑥10月15日 交流イベント編として、室谷集落住民と協働したイベント・交流プログラムの試行実践</td> <td>⑦10～2月 地域人材育成・交流プログラムモデルの構築検討会</td> <td>⑧2月 構築モデルを活かした地域づくり波及展開策の検討会・報告書取りまとめ</td> </tr> </table> <p>(事後)</p> <p>活動の中で、地域青年会が発案した自走できる5つのカテゴリの交流プログラムのラインナップを、①里山プログラム ②溪流プログラム ③食プログラム ④伝統・文化・行事プログラム ⑤室谷体験おたのしみ企画として整理。また、地域山村資源を活かした生業構築に向けた活動への誘導と他大学連携の方針と仕組みを考案し、報告書・提案書として取りまとめた。</p>	①6月 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(自然活用編)の企画調整会議	②8月7～10日 青年会、地元高校生、大学生の協働による「室谷ふるさとづくりキャンプ」(自然活用編)実施	③9月7～10日 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(伝統文化編)の企画調整会議	④9月10日 伝統文化編として、伝統行事(室谷祭礼)を活用した体験と地域貢献プログラムの試行実践	⑤9月7～10日 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(交流イベント編)の企画調整会議	⑥10月15日 交流イベント編として、室谷集落住民と協働したイベント・交流プログラムの試行実践	⑦10～2月 地域人材育成・交流プログラムモデルの構築検討会	⑧2月 構築モデルを活かした地域づくり波及展開策の検討会・報告書取りまとめ
①6月 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(自然活用編)の企画調整会議	②8月7～10日 青年会、地元高校生、大学生の協働による「室谷ふるさとづくりキャンプ」(自然活用編)実施	③9月7～10日 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(伝統文化編)の企画調整会議	④9月10日 伝統文化編として、伝統行事(室谷祭礼)を活用した体験と地域貢献プログラムの試行実践						
⑤9月7～10日 「室谷ふるさとづくりキャンプ」(交流イベント編)の企画調整会議	⑥10月15日 交流イベント編として、室谷集落住民と協働したイベント・交流プログラムの試行実践	⑦10～2月 地域人材育成・交流プログラムモデルの構築検討会	⑧2月 構築モデルを活かした地域づくり波及展開策の検討会・報告書取りまとめ						
方法論上の特記事項	新潟県事業「大学生の力を生かした集落活性化事業」を活用して実施。2年間にわたる取組で、PBL型による学習実践として実施した。1年目は学内の地域連携教育プログラムとして、2年目は研究室活動として、実施した。								

成果	(学生)	(表、グラフ、数値など定量的成果)														
	(受入先)	<p>コミュニケーション能力の向上を感じることができた。今後は、相手の話を聞きながら理解さらに聞いてみたい点を見つけ、会話を繋ぐことができるようにしたい。実習の意義が、十分に消化できなかったことは反省点だが、青年会の人たちや地域の人との交流は自分にとってとてプラスになるものであった。学習到達目標を設定し、与えられた作業だけをこなさないように、広い視野を持っていきたい。</p> <table border="1"> <caption>当事業を契機とした実践量</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2016</th> <th>2017</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規プログラム...</td> <td>5</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>新規活動実践</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>本研究による交...</td> <td>15</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2016	2017	新規プログラム...	5	40	新規活動実践	5	10	本研究による交...	15	30		
	項目	2016	2017													
新規プログラム...	5	40														
新規活動実践	5	10														
本研究による交...	15	30														
(その他、地域住民、連携先等)	<p>研究により集落活性化のための方策・仕組み構築につながる成果として、(1)交流プログラムの構築、(2)担い手育成プログラムの構築が行われ、青年会准会員制度といったこれまでにない新機軸を打ち出すこともできたことが着目される。</p> <p>「ここに住むからには山の恵みを利用しなければ、意味がない。私たちはずっとそうしてきたし、だからこそこに住むことの価値がある」といった土地の古老の視点を取り入れた山村ならではの活動を青年会が取組めるような活動が今後さらに望まれる。</p> <table border="1"> <caption>阿賀町室谷における学習活動類型別実施量</caption> <thead> <tr> <th>活動類型</th> <th>2017</th> <th>2016</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AR(PAR)</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>SL</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>PBL</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>講義・指導</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	活動類型	2017	2016	AR(PAR)	4	6	SL	4	5	PBL	4	6	講義・指導	1	4
活動類型	2017	2016														
AR(PAR)	4	6														
SL	4	5														
PBL	4	6														
講義・指導	1	4														



実施主体関係情報 大正大学出川真也研究室 <https://degawaken.com/>